

人のうごき

平成25年5月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

石川 侑整 <small>ゆうせい</small> くん	(孝一・美樹)	南5の1
廣谷 橙香 <small>とうこ</small> ちゃん	(将大・奏恵)	幸町
森光 悠月 <small>ゆづき</small> くん	(竜太・裕華)	南町
村田 光陸 <small>みおか</small> くん	(克彦・いちご)	緑町

おくやみ

石馬場 千恵 <small>ちづみ</small> さん	43歳	南大通2
大澤 榮治 <small>えいじ</small> さん	73歳	北町
新井田 千歳 <small>ちとせ</small> さん	87歳	北4の3
敦賀 信雄 <small>のぶお</small> さん	80歳	幸町
荒井 久仁代 <small>ひさよ</small> さん	91歳	栄町
滝本 シズエ <small>しずえ</small> さん	85歳	栄町
中村 よし彥 <small>よしひこ</small> さん	92歳	栄町
村田 秀子 <small>ひこ</small> さん	83歳	中央
東出 ミトリ <small>みどり</small> さん	96歳	築別



羽幌防災ボランティアきずなの会 会長

江幡 昭 さん (69才・港町)

震災の大切な教訓を

風化させてはいけない
『備えあれば憂いなし』

「災害が起きたとき、まずは自分の命を守りその後、支援が必要な人たちの助けとなる活動をする。そのためには活動できる組織が重要。また、普段から情報の収集、正しい知識や技術の習得が必要になる。」と話してくれたのは、東日本大震災の2カ月後現地に赴き、がれき撤去などをボランティアとして体験したことをもとに、羽幌町防災ボランティアきずなの会を設立したメンバーの一人、現在会長として会の運営に携わっている江幡さん。

「災害が起きたとき、まずは自分の命を守りその後、支援が必要な人たちの助けとなる活動をする。そのためには活動できる組織が重要。また、普段から情報の収集、正しい知識や技術の習得が必要になる。」と話してくれたのは、東日本大震災の2カ月後現地に赴き、がれき撤去などをボランティアとして体験したことをもとに、羽幌町防災ボランティアきずなの会を設立したメンバーの一人、現在会長として会の運営に携わっている江幡さん。

「高年齢や障がいがあるなど、災害時に支援を必要とする人の把握は、会だけでは難しい。これから、関係機関と連携し、各町内会と一緒に、災害時の協力体制をつくっていききたい。」と設立2年目を迎え、今後の活動の抱負を話してくれました。

編集後記

今月号で、広報はぼろが通巻600号を迎えました。昭和35年の1号から53年の月日を数えます。3月号でもお知らせしましたが、町のホームページには第1号から掲載しています。

昔の広報を見てもみると、昭和37年12月号の表紙は、健康優良乳児を決める赤ちゃんコンクールの写真が掲載されています。このようなコンクールは、今日では考えられませんが、昔は赤ちゃんの発育が食糧事情のひとつのバロメーターだったのかもしれないね。

節目の号でも十分に羽幌のあゆみを振り返ることができ、ますので、どうぞ昔の「広報はぼろ」をご覧ください。(N)

人口と世帯数(5月末)

人口	7,779人	(-17)
男	3,696人	(-5)
女	4,083人	(-12)
世帯数	3,797世帯	(-7)
	()	は前月比

